

婦人と子ども

第一卷第三號

(明治三十四年三月五日)



(本欄は凡て  
轉載を禁す)

たんじょーび

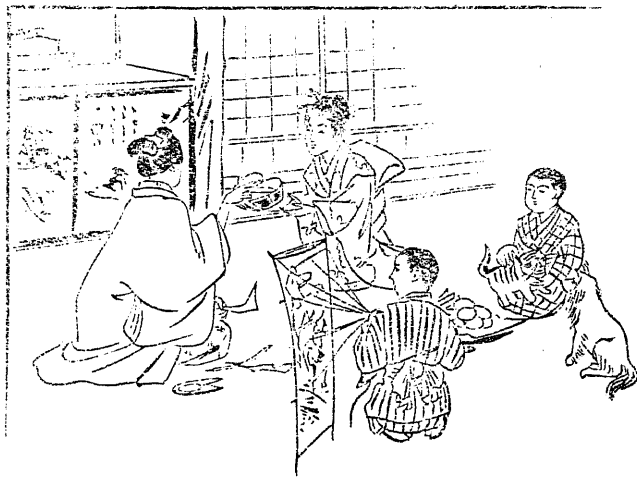
きょーわ ぼくの たんじょーび だから みんな

な おいで にーさんも ねーさんも おかーさま

が ふくびきを して くだ さるとさ あー

ぼち も きた

ねーさんの にんぎょー も いらっしやい



「はい、わねーさん、ふんてくたさい」  
 「はーい、かとーさまよまさのとらがり」  
 「やー、おー、おー」

さーくちを おひきなさ  
 いな  
 にーさん わ 「にっぽんの  
 たいしょー」 「それでわたこ  
 です」  
 「やー、二まいばんでさと  
 ーおにたいさのゑか  
 いーないーなーぼくの

きなおもちやの　とら　だな―　ね―さんわ」　「あ  
しのおともだち」　「げた　でしよ」

「あてられました」

「ぼち　にわ　おかし　でもやる」

半太と小人

むかし　くある所に　靴屋の半太とゆ―　正直者  
が　ありましたとき。　所が　ある時　商賣で大變な  
損をして　丸つきり家が貧乏になつてしまつたので  
す。　夫で家にわ、　何にもない様になりましたが　夫